

## 岸上 知志 (Kishigami Satoshi)

オックスフォード大学 化学学部 博士課程

「ジェンダー・ギャップについて」交流会  
を終えて

公益財団法人坂口国際育英奨学財団様に先月ご主催いただいた、ON2022(テーマ:ジェンダーについて考える)に出席させていただいた感想をレポートにさせていただきます。奨学生の皆様は、誰しも高い見識と実体験に基づくご意見を持っておられ、私としては様々な卓見に触れることができてとても学びの多い交流会となったと感じております。特に、国や地域ごとのジェンダー観の違いに焦点を当てた発表は極めて興味深く拝聴させていただきました。

さて、交流会が終わってから本レポートを執筆する間にも、英国では史上三人目の女性首相が選出され、九月六日に女王陛下によって正式に英国首相として任命されました。そして、誠に残念なことに、英国エリザベス2世女王陛下は九月八日に崩御され、70年以上に及んだ在位期間中、連合王国とコモンウェルスが歩んできた一つの時代が区切りを迎えたように感じます。下の写真のように、オックスフォードの各カレッジでもユニオンジャックの半旗が掲げられるなど、弔意一色となった英國をこれから率いていかれるト拉斯首相に注目が集まっています。英國のEU離脱に伴う様々な難題に取り組まれたメイ首相や、さらに遡って鉄の女と言われたサッチャー首相の時もそうでしたが、英國は歴史上三度目の行政のトップが女性という体制に入ることになります。



▲オックスフォードの各カレッジに掲げられた英國旗の半旗(九月九日撮影)

ところで、日本においては近代的な内閣制度が誕生してから現在に至るまで、女性首相が誕生したことは一度もありません。もちろん、国家はそれぞの伝統や文化を大切にしていく必要があり、トップがどのような人物であるかどうかだけで国家やその他の組織の優劣が判断できるとは必ずしも言えないと私は思っております。しかし、私も含めた他の奨学生の方々のうち何人かが指摘したように、日本社会における女性の活躍は未だに多くの障壁に阻まれており、その結果は諸データに記載されている数字でも明らかです。さらに、他の奨学生の方が指摘していらしたように、従来の男性と女性という見方以外にも、LGBTQ+などのマイノリティーの方々の社会的な活躍についても課題は多いように感じます。

私が現在身を置いている研究の世界においても、英國社会の中で女性の活躍が進んでいることを実感致しております。オックスフォード大学化学科物理理論化学研究所の教授陣を見てみると、英國においてもまだ男性の教授の方が多い印象を受けますが、女性の方の割合も高まってきており、研究員や学生においては男性と女性の人数

の差はあまり気にならない程度になっていると思います。

ちなみに、私の現在の指導教官のアンドリュー・ボルドウイン教授は、教授陣としての位置付けとしては既に若手ではないが中堅といったところなのかなと思います。では、英国の科学界コミュニティーの代表的なものの一つであるオックスフォード大学化学科のトップは誰なのかと言うと、私個人の見解ではキャロル・ロビンソン教授になるのではないかなと思います。研究者の世界は多様な価値観を尊重することが自由闊達な科学への挑戦を可能にするので、あまりヒエラルキーの面を強調したくはないのですが、ロビンソン教授が英国王立化学会 (Royal Society of Chemistry)の会長を務められ、現在私が主に研究活動を行なっている新しい研究棟の建設を主導した事実から鑑みても、彼女がオックスフォードの学術研究におけるキーパーソンの一人であることは間違いないと思います。

ロビンソン教授は、数年間にわたるキャリアブレイクを取って複数の子供を育て上げた母親であり、その上で研究者としての成功だけでなくスピノアウトのベンチャー企業も非常に大きな収益を上げ、なおかつ新しい研究棟での人的交流を促進するために平日の 3 時に無料の紅茶・コーヒーとクッキーを楽しむことのできるティータイムを設けてくださるなど、ご自身のキャリアの成功だけでなく、若い世代のことも考えてくださる大変優れた指導者だと感じております。学生の間では敬意と冗談を交えてクイーンと呼ばれていたりもします。日本の理系の学術研究の世界やその他の分野でも、彼女のような人物が多くなっていくことを切に願っております。そのためには、ライフィイベントによるプロフェッショナルキャリアの中斷やその後の復帰を支援する社会的なシステムの整備や、教育を通じた価値観の変革、そして数字と実態の両面において、従来の男性と女性という枠の中での平等だけでなく LGBTQ+ の方々も含めた

多様な価値観を持つ人々が活躍できる環境を整備してゆくことが喫緊の課題であると考えます。

最後に、今回の交流会において蜂谷様より発表された、初代代表理事として貴財団を設立・運営してくださっていた坂口美代子様の訃報について、私から心よりの哀悼の意を表したいと存じます。様々な面で女性の社会進出に対するハードルが非常に高かった昭和・平成の日本の経済界において、企業の経営者としてリーダーの道を歩まれ、坂口電熱株式会社を大きく発展させることには、私の想像を絶するような困難があったことと拝察いたします。その上、若い世代に対する奨学金支援活動に取り組んでくださるなど、故人様の度量の大きさには深く敬服いたします。故人様のご冥福をお祈りいたしますと共に、貴財団からのご支援を無駄にしないためにも、今後の留学生活を有意義なものにしたいと決意いたしております。

以上